

第 7 章

水 産 業

第 7 章 水 産 業

概況

大阪府の漁業は、瀬戸内海に属する大阪湾の東半分を主要漁場とし、主として内湾性の魚介類を漁獲対象として営まれる沿岸漁業である。

大阪湾は淀川、大和川をはじめ、多くの河川が流入し、飼料生物は豊富で、瀬戸内海の中でも上位にランクされる生産性の高い漁場となっている。また、南北に連なる海岸線は、府内9市3町にまたがっている。

主な漁獲物は、魚類では「いわし類」「このしろ」が中心で、次いで「いかなご」「まあじ」、その他の水産動物類では「えび類」「しゃこ」「たこ類」となっている。

また、漁港は平成12年3月末現在で12港、そのうち第1種が10港、第2種が2港となっている。

海面漁業経営体・使用漁船数

平成13年1月1日現在で実施した漁業動態調査によると、府内における海面漁業経営体数は682経営体で、これを市町別にみると、岬町が127経営体で最も多く、次いで泉佐野市が95経営体、岸和田市が92経営体、阪南市が91経営体となっている。

また、経営組織別にみると、個人経営体が626経営体で、全体の91.8%を占めており、以下、共同経営が54経営体(構成比7.9%)、漁業生産組合が1経営体(同0.1%)となっている。

経営体が調査期日前1年間に使用し、調査日現在も保有している漁船の総隻数は、901隻で、その内訳をみると、動力船が873隻(構成比96.9%)、船外機付船が28隻(同3.1%)となっている。

動力船についてトン数規模別にみると、「5～10t」が481隻

(構成比55.1%)と最も多く、次いで、「1～3t」が202隻(同23.1%)、「3～5t」が130隻(同14.9%)、「10t以上」が52隻(同6.0%)の順となっている。

海面漁業漁獲量

平成13年の総漁獲量は1万5529tで、これを市町別にみると、岸和田市が1万479t(構成比67.5%)と最も多く、次いで、泉佐野市が1302t(同8.4%)、岬町が1104t(同7.1%)となっており、この2市1町で全体の83.0%を占めている。

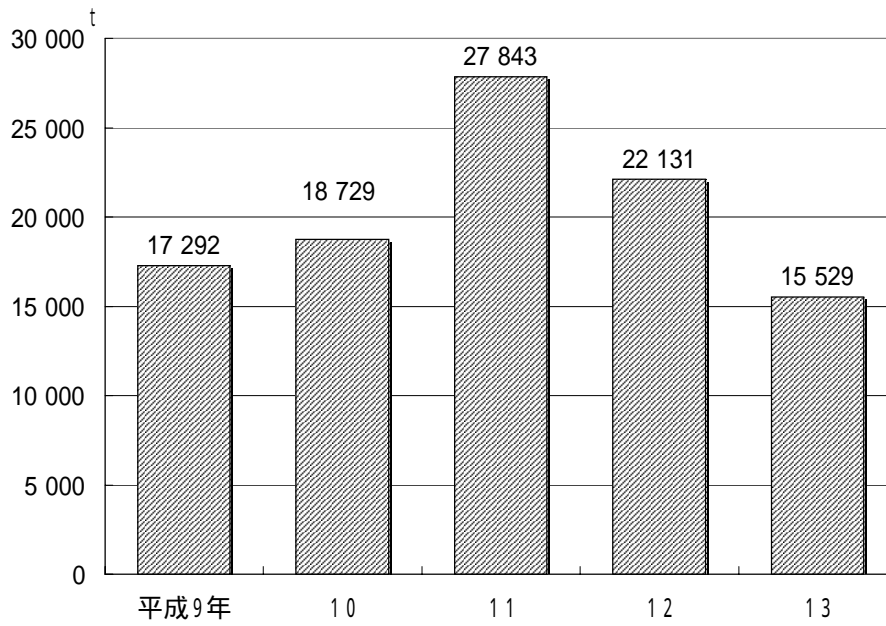
また、漁業種類別にみると、2そうまき巾着網が8853t(構成比57.0%)、ひき回し船びき網3572t(同23.0%)、小型底びき網1507t(同9.7%)の順となっており、この3漁業で全体の89.7%を占めている。

魚種別では魚類が1万4776t(構成比95.2%)と漁獲量のほとんどを占めており、以下、その他の水産動物類654t(同4.2%)、貝類99t(同0.6%)の順となっている。魚類のうち「いわし類」が8022tで最も多く、全漁獲量の51.7%と過半数を占め、次いで、「このしろ」が1983t(同12.8%)、「いかなご」が1459t(同9.4%)となっている。

内水面漁業漁獲量

平成13年の内水面漁業漁獲量は34tで、魚種別では、「さけ・ます類」が30t、「あゆ」が5tとなっている。

海面漁業漁獲量の推移



市町別、海面漁業漁獲量の割合（平成13年）

